

出血性胃十二指腸潰瘍の臨床的特徴についての研究に関する患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

この度国立病院機構東京医療センター消化器科では、「10 年間の出血性胃十二指腸潰瘍の成因及び治療法の変動に関する後ろ向き研究」を行うことになりました。

この研究の目的は、10 年間で出血性胃十二指腸潰瘍の原因や治療法がどのように変化してきたのかについて調査することです。

この研究のため、2006 年 1 月 1 日より 2016 年 12 月 31 日の間に出血性胃十二指腸潰瘍の診断で入院となった患者さんの診療録の調査を行います。調査項目は個人情報を含まない医学的な情報（内視鏡所見、治療経過など）のみです。患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。

調査したデータは、本研究の責任者のもとで厳重に管理されます。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。

また、ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡下さい。その場合も、診療上何ら不利な扱いを受けることはありません。

この件に関しましてご質問等がございましたらご遠慮なくお尋ね下さい。

2017 年 10 月

東京医療センター 消化器科

研究責任者 浦岡俊夫

連絡先 03-3411-0111（代表）